

作文跬步

村松良甫述

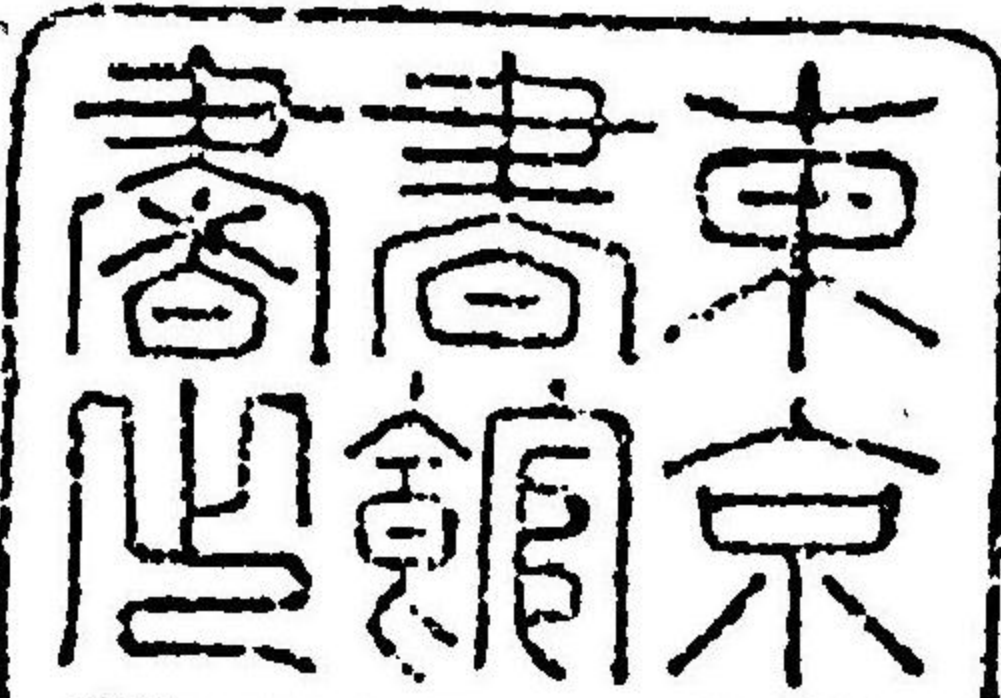
二

館藏書會百教本日大			
三	八	二	三
册	號	架	函

會
函
架
號

特 33

30



作文跬步卷之二

静岡

村松良肅述

字法

連城ノ趙璧モ一點ノ瑕瑾アレハ之ヲ完璧ト謂ヒ難ク
テウジンノタマ 干將莫鄒ノ名劍モ一箇ノ欠鉞アレハ之ヲ宝劍ト爲シ
キズ マツタキタマ

文章ニ於ルモ亦然リ、錦繡ノ段練ナリト雖モ一字ノ不
アハニキ オチ

善ハ亦全文ト稱シカタシ、故ニ古人尤モ練字ノ法ヲ
シラネル

難トセリ、善爲文者、富於万篇、貧於一字トモ、マタ易字
トモ

難於代句、凡云ヘリ、字法ハ譬ハ人ノ眼睛ノ如シ、縦ヒ

娥眉巧笑ノ美人ナリトイヘ凡、眼睛ノ光彩其所ヲ得
 スシテ、左右瞻顧ノ際、其調子ニ違ヘハ、衆美モ一敗ニ属
 スヘキナリ、故ニ字法ハ其句ニ縝密ニシテ其義ニ的切
 ナル者ヲ擇ンテ使用セス、ハ有ヘカラス、字法宜キヲ得ル
 片ハ物ノ形状ヲ寫シ、事ノ情態ヲ摸スルニ、彷彿トシテ其
 物ヲ見、其事ニ當ルガ若ク、無量ノ餘韻ヲ含クミテ、ヨク人ヲ
 感動セシムル者ナリ、檀進使者、而問故トアルヲ見レハ、他
 ヨリ來レル使者ヲ、夫子ノ召シ近クテ事ノ故ヲ問ヒ、又使
 者カ夫子ノ前ヘ進ミテ答ヘヲナセシ所以シノ義、唯此ノ

進ノ一字ニテ足レルナリ、左傳目迎送之トアルヲ見レハ、彼

方ヨリ來レル美人ヲ、此方ヨリ視迎ヘツノ已ニ往過キツ
 ル後口姿ヲモ、暫時ノ間視送レルノ趣キヲ知ルヘシ、中庸視

而不見聽而不聞トアリ、此視聽ノ二字ヲ味ヘハ、人モ心
 ヲ放チテ、ウツカリトシテオレハ、目ニ入レル色モ耳ニ入レル

音モ、能ク其色音ヲ分別スルナシトノ意ヲ知ルヘキナ
 リ、又字法ヲ奇ニシテ文章ノ奇拔ヲ取ルナリ、東坡煮

海、鑄山ト云ヘル句アリ、是錢氏ノ富強ナル勢ヲ形容シ
 テ、其海水ヨリハ鹽ヲ製シ、鑛山ヨリハ金銀ヲ掘出セル

一ヲ、面白ク書キ廻セシ者ナリ、又海立山飛、山笑、花燃ノ類數甚々多シ、只々其句ヲ奇ニスルノミナリ、

○字法ニ於テ初學ノ輩第一ニ注意スヘキハ、顛倒錯置ナリ、顛倒トハ文字ヲ倒マニ使ヒ謬マルヲ謂ヒ、錯置トハ文字ノ置所ノ謬レルヲ云フナリ、蓋シ文字ハツノ置キ所ニヨリテ、義理ヲ異ニスル者ナレハ、初學ノ輩最モ之ヲ慎マスンハアル可カラス、凡テ文字ハ其ノ上ニ在ル者、コレガ主トナルナリ、其主タルヘキ者ヲ早ク眼ニ觸シメンカ為メニ、之ヲ上ニ置クハ乃チ自然ノ勢ニテ、平日言辭ノ上ニテモ

同シナリ、例之ハ花ノ香ヒト云ヘハ、花ガ主ニナリ、香ヘル花ト云ヘハ、香ガ主ニナルガ如シ、漢文ニテモ亦復此ノ如クシテ、身脩ト書ケハ、其身ノ脩マルヲニテ、身ノ字主ニナリ、脩身ト書ケハ脩ノ字カ主ニナリテ、脩ムルヲガ重クナルナリ、マタ治其國ト書ケハ治ノ字主ニナリ、其字ハ國ノ字ニ係リテ、治ムルヲ重ク云ヘルナリ、其治國ト書ケハ、其字主トナリテ治メシ人ヲ指ニカ、リ、治國ノ才ヲ云ヘルナリ、其國治ト書ケハ其字主トナリ、且國ノ字ニカ、リテ、何某ノ國カ治マルト云フヲニナルナリ、國其治ト書ケハ

國ノ字主ニナリ、其字治ニカ、リ、國カ其レニテ治マリシ
 ト云フニナルナリ、斯ク二三字ノ際ニテモ、種々ニ其義ヲ殊
 ニスレハ、若シ句法ノ上ニテ一字ノ錯置顛倒アレハ、我カ
 謂ハントスル本意ニ背ケル所ノ義ヲ生シ、或ハ自他混
 雜シテ、自分ノ言フ事モ他人ノ言ノ如ク、他人ノ言フ事モ
 自分ノ言ヘル如クニ、錯雜スルコトアル者ナリ、今其解シ易
 キガ為メニ、尤モ近俗一ニ例ヲ左ニ舉ケン、

○葷酒不許入山門 是葷酒ノ字主ニナリテ、他ノ
 品ハ兔マレ角マレ、葷酒ハ入ルコトヲ許サスト云義

ナリ、

○山門不許入葷酒 是山門ノ字主ニナリテ、他
 ノ處ハ兔マレ角マレ、此山門ハ入ルコトヲ許サスト
 云義ナリ、

○不許葷酒入山門 是レ不許ノ字重クナリテ、葷
 酒ノ字輕クナリ、葷酒ヲ山門ハ入ル、コトハ決シテ許
 サスト云フノ義ナリ、

○傍若無人 是傍ノ字主ニナリテ、他ノ耳目ヲモカ
 マハス濫行スル人ヲ、外ヨリ見テ評スルノ辭ナリ、

○若傍無人 是若ノ字主ニナルユエ、濫行セル其人ノ身ニナリテ云フノ辞ナリ、傍若ノ二字ノ置キ所ニヨリテ、自他ノ區別ヲ生スルコト此ノ如シ、

後漢書 帝雖年少猶天下之父、雖ノ字上ニ在ル片ハ、雖ノ字主ニナリテ其人ヲ論シテ、帝ハ年モ少クレト云ノ義ナリ、天下ノ父ノ字ハ、帝ノ字ニ係レルナリ、

史記 公孫鞅年雖少有奇才 年ノ字上ニアリテ主トナルユエ、專ラ其年ノ老少ヲ云フノ意ナリ、有奇才ノ字ハ其年ニ係レルナリ、

漢書 上少時所嘗游處 是レ嘗ノ字游ビシコトニカ、レルナリ、嘗所怨恨輒任客殺之 是レ嘗ノ字、怨ミシ所ノ人ニカ、レルナリ、

韓文 與其有譽於前孰若無毀於其後 是上句ノ其字ハ前ニ譽レ有ルノ一句ニカ、リ、下句ノ其字ハ後ノ一字ニカ、レリ、

同 孰殺子產吾其與之 是レ孰ノ字カ本ニテ子產カ末トナルユエ與之ノ字ハ孰字ヲ指スナリ、
左傳 子產而死誰其嗣之 是レ子產ヲ本トシテ云フユ

工二嗣之ノ字ハ子産ヲ指スナリ、

○文章ハ人ノ言語ノ如キ者ユ工、大人ノ言ヲ描セハ大人ノ辞ノ如ク、小兒ノ語ヲ寫セハ小兒ノ辞ノ如ク、鄙人ハ鄙人ノ如ク、勇者ハ勇者ノ如ク、婦人ハ婦人ノ如ク、又禽獸ナトヲ寫セハ禽獸ノ形狀ヲ見ルカ若クニ書キ取ルヲ以テ、文ノ巧手トナスナリ、是レソノ字法句法ニ於テ其工ヲ求ムヘキノミ、故ニ唐彪曰、文、之有描寫、猶畫者、之描寫人容也、容貌毫髮不肖、不得謂之工、即容貌肖矣、而神氣毫髮不肖、亦不得謂之工、云云トアリ、古人ノ文章ハ

能ク此描寫ノ法ヲ得タリト云フヘシ、今戰國策ニ荆軻カ秦ニ入り秦王ノ袖ヲ把リテ之ヲ撃ンコトヲ叙セル文ヲ節録シテ、其描寫ノ妙ナルヲ示サン、

秦王驚自引而起、袖絶、句。走ノ字ヲ省ケルハ急ナレハナリ拔劍、句劍長

句、撥其室、句時惶急、劍堅、故不可立拔、是記者ノ文ナリ荆軻

逐秦王、秦王環柱而走、是ニ至テ走ルノ字ヲ見ハセリ群臣驚愕、卒起、不

意盡、失其度、急劇ノサマ見ルカ如シ而秦法群臣侍殿上者、不得持

尺寸之具、諸郎中執兵皆陳於殿下、非有詔不得上

方、急時不及召下兵、ス百忪中ニコノ秦法ノ一段ヲ挿入シ、而ノ字ニテ轉下ス、此一段アリテ前後ノ文益々

ソノ妙ヲ見ル以故ニ字上一段ヲ總承ス荆軻逐秦王而卒惶急無以擊

軻而乃以手共搏之急鬪ノサマヲ形容セリ是時侍醫夏無且以

其所奉藥囊提荆軻荆軻ヲ抵住スルノサマ見ルヘシ○前ノ秦法ノ一段ヲ挿入セサレハ此ニ事ヲ叙スルヲ得

秦王方環柱走卒惶急不知所為直ニ上ノ環柱走ノ句ニ接ス故ニ而ノ字ヲ去テ方ノ

用字ヲ左右乃曰王負劍王負劍遂拔以擊軻斷其左股

云々秦王劍ヲ拔カントスルニ抜ケス柱ヲ環リテ走リ刑軻ヲ擊チシヲ叙シテ其地ニ在テ之ヲ看カシ實ニ傳神ノ大作手ナリ

史記ニ項羽カ沛公ヲ擊タントスルヲ聽テ張良コレヲ沛

公ニ告ケタル片ノヲ叙シテ沛公大驚曰為之奈何云々

且為之奈何ト少シノ處ニ為之奈何ノ字ヲ重ネタリ以

テ沛公ノ驚ケル様子ヲ知ルヘキナリ

史記目視項王頭髮上指目眦盡赤是鴻門ノ會ニ

樊噲怒リテ項王ニ見ルヲ書セルナリ其勇猛ナルヲ想

ヒ知ルベシ

非韓城中窠居而處懸釜而炊是晋ノ智伯カ晉陽城

ヲ水攻ニセシ片城の中水ノ浸サル所ナク大ニ因苦ナ

ル様子ヲ知ルヘシ

史記皆入睢水々々為之不流是漢軍ノ大ニ敗軍シ

テ睢水ヲ競ヒ入リテ溺死セシモノ多キヲ見ルベキナリ

史記 引兵渡河皆沉船破釜燒廬令持三日糧 是

必死ヲ示セルノ意ヲ知ルヘシ

漢武 若得阿嬌當作金屋貯之 是漢ノ武帝ノ歲未夕

數歳ナリシキ、長公主ユレヲ抱キテ、見ハ婦ヲ得ント欲

スヤト言ツ、阿嬌ト云ル幼女ヲ指シ、此ハ好ヤ否ヤト問

ケル中、武帝ノ笑ヒ答ヘタルキノ語ナルコノ金屋ヲ作り

テ貯ヘント言ヘルハ、如何ニモ幼童ノ語氣ナルヲ想ヒ

シルベキナリ 漢書 周期期云云 是ハ周官名期ト云

ヘル人ニテ、性吃リナルユエ、其己カ名ヲ言ヘルキニ、期々

ト吃リタルヲ寫セルモノナリ

吳越 猛獸將擊必弭毛帖伏 鷙鳥將搏必泉飛 戢翼

是猛獸鷙鳥ナドノ物ヲ擊搏セントスル片ノ貌ヲヨク形

容セリ 莊子 翹足而陸 獸ノ陸ル片ハ必ス足ヲ翹ルモ

ノナリ 淮南子 翹尾而走 獸ノ走ル片ハ必ス尾ヲ翹ルモノ

ナリ 漢書 搖尾而求食 獸ノ食ヲ求ル片ハ必ス尾ヲ搖

スモノナリ、是等皆ヨク鳥獸ノ貌ヲ描寫セルモノナリ、

警策 關鎖

文章ノ行文長クナレバ、自然平漫ニ流レ、氣勢自ラ弛緩

シテ遂ニ全篇活動セザルノ弊ヲ生シ易シ、此ノ時ニ於テヤ
 一二緊要ノ健語ヲ用ヒテ、其氣ヲソキゴ提醒興奮シ、全篇活
 動ノ勢ヲ發セル者、之ヲ警策ト云フナリ、モト長途ヲ行
 ク馬ノ勢撓屈スル片ニ、一鞭策ヲ加ヘ之ヲ警メテ、駿足ノ
 氣ヲ發セシムルノ言ナルヲ、ソレヲ假リテ文ヲ評セル辞トナ
 セシナリ、陸機ノ文賦ニ立テ片言ヲ而居ル要ニ乃チ一篇之警策
 ト云ヘリ、則チ總テ語句ノ健峻ニテ逸技ナルヲ評スル
 辞ナリト知ルヘシ、又行文中議論多端ニ駑セ、文勢散
 漫ナラントスル片ニ於テ、一節或ハ兩三句ヲ用ヒ、其義ヲ收コレ

練セシメテ取り締リヲ附ル者ヲ、關鎖法ト云フ、即チ文中ノ
 關門鎖鑰ト云フノ義ナリ、畢竟警策トハ其字面上ニ就テ
 ノ名ニテ、關鎖トハ文法上ニ就テノ名ナリ、警策ノ句ハ文
 章ノ首頭中節結末ヲ論セス、文中何レノ處ニ於テモ用ユ
 ヘキ者ナレト、就中承接轉換ノ處ニ在リテハ、尤モ其妙ヲ
 見ハス者ナリ、コレ關鎖法ニ於テハ、警策ノ語ヲ要スル
 所以ナリ、

○關鎖法ハ全篇中要領ノ處ニ於テ、斷語ヲ以テ之ヲ
 為ス者アリ、又前後轉接ノ處ニ於テ、上文ヲ鎖シ下文

ヲ起サントスル者アリ、又之ヲ鎖シテ、尚ホ聯絡ヲ兼スル者アリ、其他宜シク古人ノ文章ニ就テ、能ク其機會ヲ悟ルベシ、柳子厚ノ送薛存義序ニ、上文ニ凡テ令吏ノ勤勞ナラスニハアル可カラサルコトヲ説キテ、

其為不虛取直也的矣、其知恐而畏也審矣、二句

ヲ以テ關鍵トセリ、コレ尤モ警策タルノ語ナリ、蘇東坡ノ范增論ハ、范增カ就去ヲ論スルノ文ニシテ、

増之去當於羽殺卿子冠軍時也、下一句ヲ以テ斷了セリ、コレ全篇中ノ關鍵ニシテ、前後ハミナ此一句ヲ辨

説セル者ナリ、韓退之ノ諱辨ハ、李賀カ進士ニ舉ラレシ片、其父ノ名ハ晉肅ナルユエ、進士ニ舉ラレシハ、父ノ諱ヲ犯セルナリト、駁レル者ノ言ヲ辨セルノ文ニシテ、

父名晉子不得舉進士、若父名仁子不得為人乎、ノ四句ヲ以テ關鍵トセリ、コレ上文ヲ鎖シテ、下文ヲ起セル者ナリ、又東坡ノ王者不治夷狄論ニ

是故以不治治之、治之以不治者、乃所以深治之也、ノ三句ヲ以テ關鍵トセリ、又諸葛武侯ノ前出

師ノ表ニ

親賢臣遠小人此先漢所以興隆也親小人遠賢臣此後漢所以傾頹也ノ六句ヲ以テ關鎖トセリ、コレ之ヲ鎖シテ尚ホ聯絡ヲ兼ル者ナリ、

抑揚 頓挫

文章中凡テ人物ヲ評論シ、事物ヲ討議スルニ、其短ナル處ヲ舉テ、之ヲ貶抑スルヲ抑ト云ヒ、其長スル處ヲ舉テ、之ヲ褒揚スルヲ揚ト云フナリ、柳子厚ノ言ニ抑之欲其與揚之欲其朋トアリ、是文章抑揚法ノ本義ナリ、而シテマタ之ヲ文勢語氣ノ上ニテ論スル者アリ、周東

信カ趙國公集序ニ含吐性靈抑揚詞氣ト云ヒ、晉書ノ李充傳ニ彫琢生文抑揚成音ト云フカ如キハ、皆々之ヲ以テ文章ノ妙ヲ形容セシ者ナリ、抑揚ハモト聲音ノ調子ヲ取ルノ辭ナルヲ、ソレヲ假リテ文章ヲ形容セル者ナリト知ルベシ、文章ハ其行文始終同シ調子ニテハ波瀾ナクシテ面白カラヌ者ナリ、故ニ或ハ之ヲ揚褒シ或ハ之ヲ貶抑シテ平海ニ波瀾洶湧ノ勢アラシムヘシ、而シテ其法一二句ノ間ニテ抑揚スル者アリ、數章ノ中ニテ之ヲ抑揚スル者アリ、凡テ人物ヲ評シ事物ヲ論シテ、之ヲ貶抑セントスル者ハ、先ツ上文

ニ於テ之ヲ揚褒シ置ケハ下文ニ於テ之ヲ貶抑スル片ニ
 當リ、上文ニ反激シテ其貶辭モ亦甚シク聞ユル者ナリ、
 之ヲ揚褒セントスルモ亦復々爾ル者ナリ、歐陽廬陵
 ノ讀李翱文ノ文ニ其首ノ二節ニ於テハ李翱ヲ貶シ、第
 三節ニ至リ、之ヲ褒稱シテ其能ヲ盡セリ、コレ抑揚ノ法
 ナリ、東坡ノ范增論ニ、全篇范增ヲ貶駁シテ、結末ニ
 於テ增亦人傑哉ノ句ヲ以テセリ、是亦抑揚法ナリ、
 ○頓挫トハ一二語ヲ用ヒ之ヲ頓發シテ其起勢ヲ作サ
 シム頓ヲ振頓ノ頓トナシテ看ルトナシテ看ル之ヲ頓ト云ヒ、一二語ヲ用ヒ之ヲ挫屈シトナシテ看ル

テ止勢ヲ作サシム、之ヲ挫ト云フ、マタ先ニ抑ヘテ後ニ
 揚ルヲ抑揚ト云ヒ、先ニ揚テ後ニ抑ユルヲ頓挫ト謂フト
 ノ説アリ、或ハ又々抑揚頓挫ト云フハ、文章ヲ朗誦スコトヲタテヨム
 ル、其音節ノ狀ヲ名クテ言フナリトノ説モアルナリ、然レ
 氏古人ノ此語ヲ以テ評スル處ノ文章ヲ觀ルニ、其轉接キカヘル
 ノ際ニ於テ、二三字或ハ一二句ヲ用ヒテ、頓住セシムル處オシトスル
 ノ者多シ、蓋シ頓挫ハ、抑揚ト其類ヲ同フンテ、其狀ヲ
 異ニスル者ナリ、凡テ抑揚ハ之ヲ一人一事ノ上ニ就テ用
 ヒ、行文中ニ於テ評スルノ辭ナリ、頓挫ハ語氣文勢ノ

上ニ就テ之ヲ論ス、乃チ一語一句轉接ノ際ニ在ル者ナリ、魏叔子ノ言ニ古文接處用提法人、所易知轉處用駐法人、所難曉、凡文之轉易流便無力、故每於字句未轉時、情勢先轉、少駐而後下、頓挫沉鬱之意生云々ト云ヘリ、マタ陳繹曾ノ言ニ頓挫、立意跳盪、造辭起伏ト云ヒ、又翁正春カ李陵答蘇武書ノ命也如何、傷已又自悲矣、ノ三末句ヲ評シテ、頓挫有法ト云ヘリ、是等ノ語ヲ推セハ、頓挫ノ峻語ヲ下シ、頓挫カニ之ヲ轉折シテ、オソク屈然トオシツクル語句ノ急促ナルハツミヲ形

容スルノ詞ナルヲ知ルヘシ、又王世貞カ言ニ、中作奇語、峻奪人魄者、須上下相顧、一起一伏、一頓一挫ト云ヘリ、亦以テ頓挫法ノ趣ヲ了會スヘシ、

預伏 照應 襯貼

允テ事物ヲ發論スルニ、之ヲ言ハントスルヲ其行文ダレヌケ中ニ突然ト言ヒ出ス片ハ、甚々粗卒ニ亘リテ周密ノ趣キナキ者ナリ、故ニ後幅ニ言ハントスル事アル片ハ、前段ニ於テ預メ先ツ輕々ニ其意ヲ示シ、或ハ陽ニ或ハ陰ニ或ハ直面ニ、或ハ其本事トナク他事ニ假託シテ、其端ヲ

伏シ置キ、後文ニ議論ヲ發スヘキノ張本コモトタラレシムル者、之ヲ

預伏法ト云フ、蓋シソノ法、顯然露骨ニ言ヒ放チレヨリ、寧

口隱々地ニ彷彿タラレメ、林間カスカニ數澤ニ僅カニ花香ノ氣ヲ

聞キ、後ニ梅花ノ下ニ出テ、前ニ聞ツル香ハ此花ナリシト、

覺ラシムルカ若キ者ヲ妙トス、前文既ニ預メ其端ヲ伏

シ置キ、而シテ中幅後幅ニ至リテ其事ヲ討論シ、前ニ

伏セシ處ノ意ニ應セシムル者ヲ、照應法ト云フ、又前文ハ、後ヲ照シ、

後文ハ前ニ應スルトテ、照應ノ字ヲ起伏キルノ字ノ如クニ様ニ説ケル説モアルナリ、而シテ又其中間

ニ於テハ許多ノ議論ヲ多ク鋪叙シテノチ、遙カニ遠隔

セルノ處ニ至テ、前ニ伏セシ事ノ義ヲ發スル者ヲ、遙接法

ト云フ、一段ノ文章其義イマ々盡キサルニ、勢ヒ暫ク之ヲ

住メサルヲ得スレテ、他ノ事ヲ挿入シ、後再々ヒ前義

ニ接シテ、論ヲ立ツル者、或ハ又叙事ノ文ナトニ於テ、本人

ノ事ヲ論シ終ラサルニ、其時タマク他人ト相ヒ關カル

ノ事ヲ、帶叙セサル可カラサル片ハ、暫ク之ヲ叙シテ後ニ、

マタ本人ノ事ニ返リテ論スル片ナトニハ此法ヲ用ユ、左傳

史記ナトニハ、往々此法ヲ用ヒタリ、而シテ又或ハ的切

ナル字句ヲ用ヒ、或ハ經史ヲ引キ、或ハ古人ノ實蹟ナ

トヲ以テ、前文ニ議論セシ處ノ義ヲ承接シ、其事ヲシテ
倍々的實著明ナラシム者ヲ襯貼法ト云フ、此等ノ諸
法ハ、允テ文章中切要ノ者ニテ、其法譬へハ、畫山水ノ山
脈ノ起伏スルカ如ク、水泉ノ隱見スルカ如ク、其已ニ絶
へタル者ノ若クナレバ、其氣ハ隱々ニ相通シ、或ハ無カ如
クナレバ、筆意遙ニ相望ンテ、微茫彷彿ノ際ニ、全ク其趣
キヲ存セシムル者ヲ妙トス、韓文ヲ評シテ常山ノ蛇勢ト
稱スルハ、此起伏照應ノ妙ヲ寓スルユエ、首ヲ把レハ尾
ヲ以テ之ヲ救ヒ、尾ヲ把レハ首來リテ之ヲ救ヒ、中ヲ

把レハ首尾共ニ之ヲ救ト云フ、乃チ全文中ノ氣脈貫
通シテ、ミナ照應スル處アルヲ謂ル者ナリ、魏叔子曰ク、
文字首尾照應之法、有明々繳應起處者、有竟不顧
者、有若無意牽動者、有及罵破通篇大意、寔是照應
收拾者、不明變化則千篇一律而文亦易入投俗矣
トアリ、且ク此語ヲ以テ起伏照應ノ法ヲ悟ルヘキナリ、

詳畧 緩急 前後 輕重

文章ニ於テ其事實ヲ詳細ニ載セ、或ハマタ省略シ
テ記スル者アリ、之ヲ詳略法ト云フ、允テ古人ノ文章ニ

ハ其事ヲ叙スル片ハ或ハ句ヲ省キ字ヲ省キ助語ヲ省ク、而シテ人ノ言辭論說等ヲ記スル片ハ字句ヲ具シ助語ヲ具ス、左傳ノ文ハ叙事ヲ記スルトハ極メテ短簡ニシテ、其意ヲ得セシムル者アレ、凡士大夫ノ辭令問答ニ於テハ如何ニモ詳細ニ記載セリ、是レ言語ナトハ其人ノ人品氣質モ賢不省モ、ヨク推想セラルヘキ者ニシテ、自ラ之ヲ詳細ニセサルト得サレハナリ、而シテ又平常無事ナル時ノ事ヲ叙スル片ハ字句モ自ラ優悠ナラシムレ、凡時ノ危急ニ涉レル事ヲ叙スル片ハ字句ヲ省略シ

シテ、其語ヲ短切ナラシム、是レ其急劇ノ勢ヒヲ示セル者ナリ、是之ヲ緩急法ト云フ、又事ノ緩急時ノ疾舒ニ關カラスシテ、一種ノ省法句法ノ條ヲ參考スヘシアリ、是レ唯其句法ヲ奇ニセシカ為メノミナリ、

○事ノ前後ニ就テ、順次ニ次第シテ之ヲ言フハ常ノコトナリ、然レ凡又後ニ言フヘキトテ前ニ舉ケ、先ニ論スヘキトテ後ニ讓ル者アリ、是レミナ事理ノ緩急輕重ニヨリ、或ハ上下ノ文勢ニヨリテ然カセサレハ、却テ文氣ノ弛弱ヲ生シ、儻クハ事義紛乱シテ却テ解シ難キニヨリ

テナリ、而シテ此詳略前後等ノ諸法ハ、叙事ニ於テ尤
 モ必需ノモノトス、蓋シ叙事文ハ事蹟既ニ定リアリテ、
 縦横變化ニ之ヲ書スルヲ得ス、故ニ其事ノ輕重緩急
 ニ隨テ、其句法字法ニ注意シ、前後左右ニ照シテ、其布
 置詳略等ヲ謹マサレハ、キラツケル通篇板俗ニ墮チテ看ルニ堪ヘサ
 ル者ナリ、古來ヨリ左傳、戰國策、史記等ノ文ヲ以テ、叙
 事文古今絶冠ノ筆ト稱スル者ハ、其事ノ緩急、其語ノ
 疾舒、ミナ真ニ逼レルヲ以テナリ、能ク熟讀シテ其妙ヲ知ル
 ヘキナリ、右等ノ諸法ハ片言隻句ノ上ニアラスシテ、行文

體面ノ上ニ在ル者ナレハ、一々ニ其例ヲ舉ケカタシ、故ニ後
 文ニ於テ叙事文ニ通節略議論文三篇ヲ騰録シ、諸
 法ヲ註釋シテ其大畧ヲ示セリ、宜シク參考シテ其義ヲ
 觀ルヘキナリ、

引用

文章中ニ古人ノ成語ヲ引キ用フルコトアリ、古文孝經、韓
 詩外傳等ノ如キハ、前ニ事理ヲ説キ後ニ經文ヲ引キテ
 之カ證據トナセシ者ナリ、或ハマタ詩曰ク書曰ク傳曰ク等
 ノ字ヲ冒シテ、其辭句ヲ引用スル者ハ常ノコトナリ、是レ

ミナ其本事ニ符合スルノ語ヲ舉ケテ、已カ論説ヲ確實ナラ
 シムル者ナリ、或ハマタ古書ノ語ヲ證據トナシ、其議ヲ敷
 行シテ、當面ノ理勢ヲ論破スルモノアリ、或ハマタ古人ノ言
 ハ、モト其理其事ノ為ノニ發セシニハ非サレバ、今纔カニ
 引ク處ノ語意ノミヲ以テ、此理此事ノ證佐トナストアリ、
 是ハ彼ノ原意ヲ以テ主トナサスシテ、我カ之ヲ引ケルノ語
 意ノミヲ以テ主トナセシ者ナリ、而シテマタ古人ノ言語事蹟
 ヲ舉テ、現今ノ事理ヲ審明スルトアリ、凡テ此ノ如キ者ミ
 ナ之ヲ經傳子史中ヨリ取ルヘシトイヘバ、成ヘク其顯明
シヤス

典雅ナル者ヲ擇フヘシ、且ツ其字句言説ヲ取ラスシテ、其
 意ヲ取リ用フル者ヲ妙トナス、又已ムトヲ得スシテ古人
 ノ言語事蹟等ヲ用フル片ハ、畧ホ其言事ヲ點過シテ、
 首尾ヲ全出セサルヲ妙トス、之ヲ全出スルハ却テ味ヒナ
 キ者ナレバ、然レバ其事ト時トノ勢ニヨリテハ、マタ全出セ
 サルトヲ得サル者アリ、凡テ古人ノ字句言説等ヲ援引
 スルニハ、其陳迹ニ漆膠セズ、之ヲ融化圓通シテ、庸腐
カハラス
 ナラシメサルヘシ、且ツ甚タ多カラシメサルヘシ、柳子厚カ友人
 ニ與ヘシ書ニ、其說韓愈處甚好、其他但用莊子國語、
トカシマルメ
フル多キ

竹文選 卷之三 十七 三石齋文集

文字太多及累正氣果能遺是則大善矣ト云リ是レ
古書ノ文字ヲ引用スルノ多キニ失セシヲ警シメシ者ナ
リ又柴虎臣ノ言ニ文詞有正宗取法乎古在得其神
理非徒雕鏤字句以貌為奇ト云ヘリ宜シク此等言ヲ
以テ法トナスヘキナリ

譬喻

凡テ事物ノ一ヲ論シテ其情態ヲ盡サント欲スレ尺猶
ホ十今ニ之ヲ詳悉スル一能ハサル片ハ其事理ニヨク恰
恰セル他ノ一ヲ援キ喻トナシテ之ヲ論スル片ハ其事ト

其喻ト互ニ相ヒ比較セラルヘキヲ以テ其意義尤モ明瞭ニ
且著切ニナル者ナリ故ニ古人モ議論文中ニハ往々此法
ヲ用ヒタリ陳騭氏博ク經傳中ヨリ其譬喻ニ互レル
辭ヲ攷ヒテ其法二十様アル一ヲ概論セリ今之ヲ抄録
シテ左ニ舉ク

○一曰直喻 猶若如似等ノ字ヲ用ヒテ喻ヲトリ其

義著ルシク見易キ者ヲ云ナリ

孟子 猶緣木而求魚也 經書 若朽索之馭六馬 是二者

ハ共ニ其事ノ成リ難ニ喻ヘシナリ 論語 譬如北辰居其處

竹書紀年
卷之二十一
十九年
三十五
堂
卷之二十一

衆星拱之莊淒然似秋多 其義理及ヒ情況シミナヨク

相似タリシ者ヲ取テ喻トナセシナリ、是等ミナ常ニ言
フナリ

○二曰隱喻 淺ク一讀スレハ其意晦キカ如クナレ、

其義ニ於テハ能ク當レル者ヲ云ナリ

禮記 諸侯不下モ漁セ邑ヲ 國君ノ其國中ヨリ取ル者ハ宜ク

法ヲ擇ンテ之ヲ取ルヘク、藪澤ヲ漁獵スル如ク、無法

ニ取ル可カラサルニ喻ヘテ云ルナリ

國語 汲平公軍無稅政 稅ハ穀ノ實ラサルシイナノ

ナリ、稅ノ如キ惡キ軍政ノ無キト云フヲ喻ヘテ云ヘ
ルナリ

國語 雖蝎ト蟻ト焉避之ヲ 蝎ハ木ヲ食フ虫ナリ、蟻ノ中ヨリ

起レルコト蝎ノ木ヲ食フカ如キヲモ避ケサルト云ノ喻

ヘナリ

○三日類喻 其一類ノ者ヲ並ヘ舉テ、次第シテ之ヲ

喻ル者ヲ云ナリ

經書 王省惟歲、卿士惟月、師尹惟日 歲月日ノ一類ナ

ル者ヲ以テ喻フルナリ

三十五
堂
卷之二十一

賈誼新書 天子如堂、群臣如陛、眾庶如地、堂陸地ノ一類

ナル者ヲ以テ喻トナスナリ

○四日詰喻 元ト喻譬ノ辞ナリト雖凡之ヲ以テ却

テ詰難スルノ意ヲ含メル者ヲ云ナリ

語論 虎兕出於柙、龜玉毀於楨中、是誰過歟、是誰ノ

過ナルヤトテ詰難セルナリ

傳左 人之有牆以蔽惡也、牆之隙壞、誰之咎也、是レ

誰ノ咎ナルヤトテ詰難セルナリ

○五日對喻 先キニ喻ヘテ舉テ之ニ比シ後ニ其事

ヲ言テ之ヲ證スル者ナリ

莊子 魚相忘乎江湖、人相忘乎道術、

荀子 流丸止於甌叟、流言止於智者、

此ニツ者ハ共ニ下ノ句ヲ以テ、上句ノ喻ヘテ證セル者ナリ

○六日博喻 喻ヲ取ル一二箇條ニ止マラス、其數

ヲ多ク舉テ以テ喻フル者ナリ

經書 若金用汝作礪、若濟巨川用汝作舟楫、若歲大旱、

用汝作霖雨、猶以戈春黍也、猶以錐殮壺也、

ノ類是ナリ

○七日簡喻 其文簡易ナレモ其意ハ明瞭ナル者ヲ云ナリ

傳左 名徳之興也 子楊 仁宅也 ノ類是ナリ

○八日詳喻 多數ノ言辞ヲ假リテ其主義ヲ顯ハス者ナリ

荀子 夫耀蟬者務在其明乎火振其樹而已火不明雖

振其樹無益也今人主有能明其德則天下歸之若蟬之歸明火也ノ類是ナリ

○九日引喻 前哲ノ語或ハ謠諺等ヲ引テ之カ

喻ヲナセシ者ナリ

傳左 諺所謂庇焉而縱尋斧焉者也 記礼 蛾子術之其

此之謂乎 ノ類是ナリ

○十日虛喻 其物ヲモ指サス其事ヲモ指サス唯

虚語ヲ以テ喻ヲナス者ナリ

語論 其言似不足者 子老 漂兮似無所止 ノ類是ナリ

改竄 鍛鍊 修詞

文章ハ一筆ニ寫成シ點竄ヲ加ヘスシテ自ラ工ナル者

ハ殆ント難キナリ寧衡カ鸚鵡賦ノ如キハ席上ニ

筆ヲ揮ヒ畢リテ一字ヲ改メスト云ヘリ、是所謂ル神
到ノ文ニシテ、尋常ヲ以テ論スヘカラス、我人皆一文章
ヲ作り、其草創已ニ定ル片ニ、乃チ頭ヨリ尾ニ至ルマテ
逐一ニ檢點シテ、其妥貼ナラサル者ハ之ヲ改正シ、其氣
ノ順ナラサルアレハ之ヲ踈ナラシメ、句ノ圓ナラサルア
レハ之ヲ練リ、血脉ノ不貫アレハ之ヲ融シ、幾回モ仔細
ニ考正スヘシ、古人モ已ニ甚々之ヲ務メタリ、歐陽公ハ
成文ノ後、之ヲ壁ニ粘ノ朝夕ニ觀テ之ヲ改正シ、自ラ改
正シテ遂ニ原本ノ一字ヲモ存セサルニ至リシ者アリト云

ヘリ、既ニ公ノ醉翁亭記ハ、其初藁ニハ滁州四面ノ山ヲ
説キシ者數十字ナリシヲ、皆ソレヲ涂去抹シテ、只、環滁
皆山也ノ五字ニ改シト云ヘリ、又一文章ヲ作り甫メラ
落成セシ片ハ、自ラ其疵病アルトモ知ラサレ、暫ラク
之ヲ措キ數旬ノ後ニ再見スル片ハ、其醜惡ノ處了然
ト分ル者アリ、又己ノ目ニハ心付サルトモ、他見ニテハ一
目シテ其瑕瑾ノヨク知レル者ナリ、故ニ必ス自分ニテ
之ヲ鍛鍊スヘキハ勿論、他人ニ質シテ其可否ヲ問ヒ
定ムヘキナリ、范文正公カ嚴先生祠堂記ヲ撰シ之ヲ

李恭伯ニ示シケルニ、恭伯ニ歎シテ已マス、此文一タヒ
 出テハ必ス一世ニ名アルヘシ、惜ムラクハ只一字ノ未タ安
 カラサル者アリ、先生、德山、高水、長シノ德ノ字ヲ、風ノ
 字ニ改ルニ若カスト云ハレケレハ、公敬服シテ之ヲ改メリ
 ト云ヘリ、又黄魯直ハ相國寺ニ於テ、宋子京カ作レル
 唐史ノ稿本一冊ヲ得テ之ヲ熟讀シ、ソレヨリ文章日々
 ニ上進セリト云ヘリ、此他ナシ其字句ヲ窺易セシ處ノ
 者、ソノ最初造意ノ時ト同シカラサルヲ見テ、其用意ノ
 淺深ト鍛鍊ノ精工ナルトヲ了會シケレハナリ

○文章ニ修詞琢句ト云フアリ、其字句ヲ彫琢シテ言
 辞ヲ修飾スルヲナリ、然レモ此事甚タカタシ、動モスレハ
 浮靡彫繪ニ陥ルノ恐レアリ、武叔卿曰ク詞不彫刻則
 不工、然過于彫刻則傷氣、詞不敷演則不腴、然過于
 敷演則傷骨、故昔人不廢修詞、而亦不尚重修詞也
 ト云ヘリ、又曰ク必侈其詞、以為當其究也、失之冗、必
 組其詞、以為麗、其究也、失之靡、ト云ヘリ、程楷又言ク修
 詞無他巧、惟要知換字之法、瑣碎字、宜以冠冕字換
 之、庸俗字、宜以文雅字換之、ト云ヘリ、

唐彪ノ言ニ詞有宜有忌其宜キ者ハ曰輕新ナリ曰秀

逸ナリ曰明顯ナリ曰老健ナリ典雅ナリ曰潤澤ナリ

曰流利ナリ曰長短相間ナリ曰奇偶相參ナリ曰抑揚

合節ナリ曰平仄和調ナリ其忌ムヘキ者ハ曰板重ナ

リ曰麤俚ナリ曰暗晦ナリ曰庸俗ナリ曰繁空ナリ曰

澁拗ナリ曰重疊ナリト云ヘリ

弊病

文章ニ最モ忌ムヘキ者四ツアリ事ヲ記シテ其實蹟ヲ

誤マリ説ヲ立テ其義理ニ背ケル者ハ訂正ノ處忽ナル

ヨリ生ス之ヲ杜撰ト云フ建議立論モソノ主意卑屈ニ

シテ取ルニ足ラサル者之ヲ陋俗ト云フ字句ヲノミ虚

飾シテ行文華麗ニ流レ主義却テ盪失スル者之ヲ浮

靡ト云フ同シ事ヲ言ヒ重ネテ贅文ノミ多ク行文徒ラ

ニ長キ者之ヲ疊冗ト云フ此ノ四ツノ者ハ作文初歩ノ

輩往々免レサルノ弊タリ宜シク注意シテ其病ニ罹ル

ル勿レ其他ナホ種々アリ之ヲ概舉スレハ字句一轍ニ

出テ變化ナキ者ヲ板俗ト云ヒ其意旨ノアルトコロ不

明ナル者ヲ曖昧ト云ヒ語氣シブリテ流暢ナラサル者

ヲ澁滯ト云ヒ、其意味ノアサハカナル者ヲ淺薄ト云ヒ、
 ウハスベリシテ著實ナラサル者ヲ輕浮ト云ヒ、輕ハツミ
 ニシテアラノ、シキ者ヲ粗率ト云ヒ、バツトシテ時事ニ
 的切セヌ者ヲ泛濫ト云ヒ、野鄙ニシテ典雅ナラサル
 者ヲ俚俗ト云ヒ、氣力ノ弱クシテ腰折シタル者ヲ軟
 弱ト云ヒ、字句拙クシテ文面清麗ナラサル者ヲ汚穢ト
 云ヒ、クダノ、シク、並ヘ立テ事ノ條理ナキ者ヲ猥雜ト云ヒ、
 意詞トモニ皆古ノカシキ者ヲ陳腐ト云ヒ、語氣手荒ク
 シテ溫和ノ色ナキ者ヲ訶嶮ト云ヒ、語意オモクシテ句

カラノスツカリトセヌ者ヲ笨重ト云フ

○隨園尺牘ニ朱石君侍郎カ、文ノ十弊ヲ論セシ言

ニ、心ヲ談シ性ヲ論シテ宋人ノ語ニ似タルハ一弊ナリ、俳

詞偶語六朝ノ靡曼ヲ學フハ二弊ナリ、記序ハ其體裁

ヲ知ラス傳志ハ帳簿ヲ寫スカ如キハ三弊ナリ、優孟ノ

衣冠ノ如ク秦漢ニ模仿スルハ四弊ナリ、一塗ニ八家ノ

空套ヲ守リテ、自カラ心裁ヲ出ス、一能ハサルハ五弊ナ

リ、成語ヲ餽釘シテ死氣紙ニ滿ルハ六弊ナリ、詞ヲ措

ク、一率易ニシテ頗ル應酬ノ尺牘ニ類セルハ七弊ナリ、

ヲ澁滯ト云ヒ、其意味ノアサハカナル者ヲ淺薄ト云ヒ、
 ウハスベリシテ著實ナラサル者ヲ輕浮ト云ヒ、輕ハツミ
 ニシテアラノ、シキ者ヲ粗率ト云ヒ、バツトシテ時事ニ
 的切セヌ者ヲ泛濫ト云ヒ、野鄙ニシテ典雅ナラサル
 者ヲ俚俗ト云ヒ、氣力ノ弱クシテ腰折シタル者ヲ軟
 弱ト云ヒ、字句拙クシテ文面清麗ナラサル者ヲ汚穢ト
 云ヒ、クダノ、シク並へ立テ事ノ條理ナキ者ヲ猥雜ト云ヒ、
 意詞トモニ皆古メカシキ者ヲ陳腐ト云ヒ、語氣手荒ク
 シテ温和ノ色ナキ者ヲ訥嶮ト云ヒ、語意オモクシテ句
 カ、ラノスツカリトセヌ者ヲ笨重ト云フ

○隨園尺牘ニ朱石君侍郎カ、文ノ十弊ヲ論セシ言

ニ、心ヲ談シ性ヲ論シテ宋人ノ語ニ似タルハ一弊ナリ、排

詞偶語六朝ノ靡曼ヲ學フハ二弊ナリ、記序ハ其體裁

ヲ知ラス傳志ハ帳簿ヲ寫スカ如キハ三弊ナリ、優孟ノ

衣冠ノ如ク秦漢ニ模仿スルハ四弊ナリ、一塗ニ八家ノ

空套ヲ守リテ、自カラ心裁ヲ出ス、能ハサルハ五弊ナ

リ、成語ヲ短釘シテ死氣紙ニ滿ルハ六弊ナリ、詞ヲ措

ク、率易ニシテ頗ル應酬ノ尺牘ニ類セルハ七弊ナリ、

邊幅ニ窘^シテ枯木寒鴉ノ如ク淡泊ニシテ味ナキハハ
 弊ナリ、平弱敷衍ナルハ九弊ナリ、章句ヲ艱澁ニシテ淺
 陋ヲ飾ラントスルハ十弊ナリト云ヘリ、

○潛邨劄記ニ關若璩カ三失ノ説アリ、明ヨリ以後學問
 文章遠ク漢唐宋元ヲ追フ^レ能ハザルハソノ故ニアリ
 一ニハ洪武十七年以後ノ定制ニハ股時文ヲ以テ士ヲ
 取ルヨリ壞ル^ヤツノ失ハ陋ナリ、二ニハ李夢陽カ復古ノ
 學ヲ唱ヘテ六藝ニ原本セザルニ壞ル^ツノ失ヤ俗ナ
 リ、三ニハ王守仁良知ノ説ヲ講シテ讀書ヲ以テ禁ト

スルニ壞ル^ツノ失ヤ虚ナリト云ヘリ、

○徐侯齋ノ言ニ文ニ三謬アル^{コト}ヲ論セリ一ハ體裁ノ
 謬ナリ、二ハ段落ノ謬ナリ、三ハ行文ノ謬ナリ、是等ノ謬
 リハ、其本四病ヨリ来レリ、四病トハ一ニハ雅ナリ、二ニハ
 雜ナリ、三ニハ蕪ナリ、四ニハ陋ナリト云ヘリ、

古文技抄

文章ノ諸法ハ、タ、之ヲ文字上ノミニテ説ク片ハ譬
 ヘハナホ一片ノ齧肉ヲ嘗^ナテ大牢ノ全味ヲ知ラサルカ
 如キナリ、故ニ之ヲ全文中ニ照シテ、其前後照應ノ法、

起伏頓挫ノ勢、緩急疾舒ノ趣キヲ看テ、文外ニ文アリ、字外ニ字アルヲ悟ラスニハ、奚ニグ其肯綮ヲ得可ケンヤ、因テ今茲ニ左傳史記ノ叙事文二篇ヲ節録シ、韓柳王ノ議論文三篇ヲ抄出シ、聊カ卑見ヲ註釋シ以テ其機會ヲ知ラシメント欲ス、乃チ古人ヲ誣ルニ似テ、替者ノ大象ヲ摸ルノ毀リアルヲ免レスト雖氏、亦已ムコトヲ得サルニ出ル者ナリ

左氏傳晉公飲趙盾酒 節録

傳左 晉靈公不君、云云宣子驟諫、公患之、使鉏麇賊之

晨往寢門闢矣既ニ開ケテアリシ、盛服將朝、尚早坐而

假寢二字三字四字ヲ以テ一句トナス、靈公カ趙盾ノ諫ムルヲ厭ヒ、鉏麇ヲシテ之ヲ殺サシメントシ、鉏麇晨ニ往テ趙盾ヲ

窺ヒ、趙盾ノ恭敬ナルサマヲ言ヒ盡セリ、コト叙事ナルユエ字句ヲ省畧シテ單簡ナラシム、鉏麇退歎而言

曰、不怠恭敬民之主也恭敬ノ字、盛服假、賊民之主不

忠、弄君之命、不信、有一於此、不如死也コレ言辭ヲ記セルユエ、詳悉

シテ其意ヲ盡セリ且ツ、觸槐而死コレ鉏麇ノ一ヲ結ヘルナリ、秋九月、

晉侯飲趙盾酒、伏甲將攻之叙事中ニ年月ヲ書シ、後文

史記ノ文中往々此法ヲ用ヒタリ、然カセザ、其右提彌明知

之趨、登曰、臣待君宴、過三爵、非禮也、遂扶以下、

下ト相ヒ 公啖夫爨焉明搏而殺之明ノ忠勇盾曰弄人

用犬雖猛何為鬪且出且ノ字アリテ鬪ツ、出去リシテ急劇

テ上ノ伏甲將攻之ノ提彌明死之提彌明ノ事初宜子田

於首山以下忙中ニ間話ヲ挿ム舍于醫桑見靈輒餓問

其病曰不食二日矣矣ノ字餓ノ食之句舍其半句問

之句○事ヲ叙スルユ曰宦三年矣未知母之存否今近

為請以遺之辭ユエニ使盡之句而為之簞食與肉置

諸橐以與之遺之盡之與之ノ字既而與為公介既而ノ字

節ヲ總括シ與為公介ノ倒戟以禦公徒而免之免之ノ字關カラズ

問何故何ノ字ノ意ノ深キヲ對曰醫桑之餓人也餓ノ字ヲ呼問其名

居不告而退遂自亡也靈輒ノ一ヲ結ス三問三

史記鴻門之會 節錄

史記 沛公且日從百餘騎來見項王至鴻門至鴻門見項

王王ヲ前後セ不可不蚤自來謝項王句ヲ承ケ來レリ故ニ之ヲ前後セシメシナリ

謝曰臣與將軍戮力而攻秦將軍戰河北臣戰河南

然不自意能先入關破秦得復見將軍於此今者有

小人之言令將軍與臣有郤是高祖ノ項王ニ謝スルノ辭

譏ナリ情款ノ語氣ヲ含シテ自ラ長者ノ風アリ後ノ樊項王曰

噲噲カ言ト比較シテ各々ツノ人トナリヲ見ルヘキナリ項王曰

此沛公左司馬曹無傷言之不然籍何以至此此語ヲ以テ項

王ノ怒リハ已ニ解ヌルヲ知ルヘシ、項王即日因留沛公與

飲是記者ノ文ニシテ、乃チ本日ノヲ摘撮シテ其意ヲ得セシメ

項王項伯東嚮坐亞父南嚮坐亞父范增也沛公北

嚮坐張良西嚮侍東西南北ノ向背布置ヲ詳ニシテ後文

宴會趨走ノ模様面リ見ルカ如シ、前後正

王舉所佩玉玦以示之者三項王默然不應范增起

出召項莊謂曰君王為不忍若入

前為壽壽畢請以劍舞因擊沛公於坐殺之不者若

屬皆且為所虜項王ノ怒リハ已ニ解ヌレバ范增

壽壽畢曰君王與沛公飲軍中無以為樂請以劍舞

項王曰諾項王不應ノ句

於范增ノ計策殆ント項莊拔劍起舞項伯亦拔劍起

舞項伯ノ下ニ知其意ノ三字ヲ著ケスシテ、益々危急ノ處

身翼蔽沛公莊不得擊常ノ字ヲ以テ項伯ニ貼シ、莊不得

面ヲ結於是上文ニ於テ項王ガタニテ沛公ヲ擊タントセシ

張良至軍門見

沛公

室還軍霸上以待大王來故遣將守關者備他盜出入與非常也勞苦而功高如之未有封侯之賞而聽

細說欲誅有功之人此仁秦之續耳竄為大王不取

也此語サキノ沛公ノ語氣ニ比スレハ健快ニシテ項王ニ觸ルノ

氣アリ沛公ノ功ヲ稱シテ尚ホ項王ヲ推重スルノ義ヲ見ハス

妙ナリ首ニ夫ノ字ヲ以テ端ヲ起シ言辭詳細

ナリ是レ事ノ少シク緩解セシヲ見ルニ足レリ

應_ル是レ傳神ノ文ナリ日坐_{ヨサキノ舞起立}樊噲從_テ良坐_會

送董邵南序

韓昌黎

燕趙古稱多感慨悲歌之士唯一句ヲ以テ提起シ下之ヲ承ケス又轉セス最モ奇筆

弟於唐是史記ノ晉世家ノ文ヲ引テ原案トス吾意不然一句ヲ以テ前文ニ緊接シ此事ノ有ルマシキヲ

斷破ス以下總テ其義ヲ辨詳セリ王之弟當封耶周公宜以時言於王不

待其戲而賀以成之也コレ當封ノ正說ヲ以テ之ヲ一駁セリ不當封耶周

公乃成其不中戲以地以人與小弱弟者為之主其

得為聖乎是レ一節ナリ不當封及說ヲ以テ之ヲ二駁セリ當封ト不當封トヲ對照シ戲ノ字ニ不中ノ字ヲ加ヘ乃ノ字ヲ以テ其語氣ヲ強クシ地ト人トヲ言フニ以字ヲ用ユミナ句法且

周公以王之言不可苟焉而已必從而成之也假リニ周公ノ

意ヲ酌ンテ其言ヲ設クソレヲ執テ辨駁シ逃ルノ地ナカラシム設有不幸王以桐葉戲婦

寺亦將舉而從之乎是レ二節ナリ第三駁ナリ三駁三十三樣ノ文法ヲ用ユ設ノ字不幸ノ字將從乎ノ

字、尤モ妙ナリ、故カラニ戲譎ノ言ヲ吐テ大波瀾ヲ起セリ。以上ハ天子不可戲ノ一語ニ就テ論斷セリ。凡ソ王者之德、

在行_レ之_レ何若_ニ、況ク王者ノ德ヲ以テ論_レ設未_レ得_レ其當_ラ當ノ字、上

二字ニ應ス。雖_ニ十易_ノ之_レ不_レ為_レ病_ト要_ス於_レ其當_ニ不可_レ使_レ易_ハ也、而_レ況

以其_レ戲_乎、是_レ正論ヲ以テ之_ヲ駁ス、況_レ以其_レ戲_乎ノ一句、頓

若_レ戲_而必_レ行_レ之_レ是_レ周公_ノ教_ニ王_ノ遂_レ過_也是_レ四節ナリ、第四駁

ナリ、況_レ以其_レ戲_乎ノ句ニテ已_ニ十分ニ駁_シ畢_リ又、而_レシテ又_レ此ノ

二句ヲ添_ヘテ、周公_ノ身上ニ波及_ス是_レ卒頭一步ヲ進_{ムル}ノ過_接法

ナリ、吾_ノ意_ヲ周公_ノ輔_成王_ノ上_ノ節_ノ周_ノ公_ノ身上ニ論_及セシ_ヲ承_ケ

テ、以下周公_ノ成_王ヲ輔_{クル}正_理ヲ論_辨セリ。○是_レ五節ナリ。宜_レ以_レ道_ヲ從_テ容_レ優_樂要_ス之_ヲ歸_ス大_中

而已_ト大_中ノ字、上_ノ文_不必_ス不_レ逢_テ其_レ失_ニ而_レ為_レ之_レ辭_ラ此_レ段_ノ初_ノ主_ヲ

ナリ、通篇ノ議論ニナ_レ此_レ一句_中ヨリ生_シ來_レリ。董_ノ生_ノ舉_進士_ノ連_レ不_レ得_レ志_ヲ於_レ有_レ志_ニ忽

ニ董_ノ生_ニ接_入シ_ソノ。懷_抱利_器鬱_々適_茲土_ノ吾_ノ知_レ其_レ必_ス有_レ

合_也利_器鬱_々ノ二句_悲歌_ノ句_ニ應_セリ。董_ノ生_ノ勉_乎哉_ト是_レ董_ノ生_ノ

夫_レ以_テ子_ノ之_レ不_レ遇_レ時_ト苟_モ慕_レ義_ト彊_レ仁_ト者_、皆_レ愛_惜焉_ト

其_レ性_者哉_ト上_ノ節_ニ緊_接シ、矧_ノ字_ヲ以_テ一_曲折_ラナ_シ、二_句ヲ

聞_レ風_俗與_レ化_移易_ス吾_ノ惡_レ知_レ其_レ今_ト不_レ異_於古_ノ所_レ云_ト然_ノ字

一_轉シ、忽_チ首_節ニ應_シテ其_レ及_レ激_ノ論_ヲ起_ス、今_ノ字_古ノ字_ニ照

應_ス、古_今ノ字_コレ_關鍵_ナリ、吾_ノ知_レ吾_ノ惡_レ知_レノ字_コレ_俯仰_呼應_ノ處

ナ_リ、乃_チ必_ス有_レ合_ノ義_ヲ聊_カ以_テ吾_ノ子_ノ之_レ行_ト之_レ也_ト董_ノ生_ノ合_ト

云、其風俗ノ異不異ヲトスルトナリ是レ董生ヲ送ルノ大關係ナリ、頓挫妙ナリ

云ス、又一段 吾因子有所感矣 又忽チ三轉セリ一反一正ユノ以下

ノ收束ナリ 為我弔望諸君之墓 樂毅ヲ引テ燕趙ノ士ニ

ク退之ノ主意 為我弔望諸君之墓 希望スルノ意ヲ寓セリ 而

ノアル處ナリ 觀於其市復有昔時屠狗者乎、狗屠ハ荊軻ノ友也、ミ

我謝曰、明夫子在上、可以出而仕、結二句乃チ退之ノ主

桐葉封弟辨 柳河東

古之傳者有言成王以桐葉與小弱弟戲曰、以封汝

周公入賀王曰、戲也、周公曰、天子不可戲、乃封小弱

要道ヲ辨詳セリ必レモ桐 封ノ事ノミニ拘著セス 又不當束縛之馳驟之使若牛

馬然、此段上節ヲ承ケ、束縛馳驟ノ四字ヲ以テ前半副ノ議論ヲ總

括シ上節從容優樂ノ字ニ及照セシメ、牛馬ノ如クニス可カラ

スト、マタ桐封ノ事ニ視貼 急則敗矣 一句ヲ以テ收束ス頓挫カア

五字ヲ重ヌヘキニ急ノ字ヲ用テ 且家人父子尚不能以此自

之ニ換ス省畧ノ法ヲ見ルハレ 克况号、為君臣者耶 是六節第五駁ナリ○束縛ナトノ下ハ

君臣ノ上ニテハナホサラナリ、自克 是特小丈夫缺々者事、非周

ノ字、法、且尚况ノ三字、三用足 或曰封唐

公所宜用故不可信、是七節ナリ○上文ノ吾意 或曰封唐

叔史佚成之、此一結尤モ高ク、周公ノ事ニ非リシヲ辨ス

讀孟嘗君傳 王半山

世皆稱孟嘗君能得士士以故歸之而卒賴其力以

脱於虎豹之秦斗然トレテ提起レ、能得士ヲ以テ論案嗟乎

孟嘗君特鷄鳴狗盜之雄耳豈足以言得士斗然トレ

鷄鳴狗盜ノ字ヲ以テ得士ノ字ヲ取ス特雄 不然擅齊之強

得士焉宜可以南面而制秦尚取鷄鳴狗盜之力

哉斗然トレテ一轉レ翻取レテ正論ヲ出ス、不然ノ字、上節ニ接

レ制秦ノ字、脱秦ノ字ニ對照レ句々ミナ一頃 鷄鳴狗盜之出其

門此士之所以不至也斗然トレテ断定ス、コノ一轉筆力尤

ノ字ヲ重複シ、番々士ノ字ヲ以テ對照セシメ、一往一來、抑揚吞吐ノ妙

ヲ盡ス、結句一篇ノ警策ニシテ、之ニ因テ全篇竜騰虎嘯ノ姿ヲ生

虚字用法

文中ニ虚字ヲ用フル處、章句ノ首尾ハ論ヲ待タス、或ハ

承接轉折ノ處、或ハ推原反說ノ處、或ハ收束嘆嗟ノ處

ナドニハ、處字助語ヲ用ヒテ我カ思想ヲ闡發シ、文章ノ

語聲ヲ幹旋サル可カラス、而シテ其之ヲ用ユルノ法元

ヨリ自ラ定格莫シハアル可カラス、既ニ梁素治唐彪ノ二

氏古人ノ文章ニ就テ、其用法ヲ考ヘ其字義ヲ解釋レ、七

種ノ部類ヲ分チテ、疑辭決辭ノ運用ヲ示セル者アリ今

之ヲ採釋レテ左ニ掲ク

第一起語辭

或ハ此ヨリ前ニ文ナキモ虚字ヲ以テ起シ、或ハ前文已ニ畢リテ、復タ虚字ヲ以テ起ス者皆起語ナリ

○夫 起手助語ノ辭ニテ乃チ虚字ナリ、若シ第二字實字ナレハ指ス所アリトス乃チ夫道夫天ト云フカ如シ、若シ次ノ字虚字ナレ

ハ指ス所アリト ○蓋 起手助語ノ辭ニテ虚字ナリ、指ス所ヲ定メス文意ニカ、ルナリ

○今 近事ヲ論スルニ多クコノ字ヲ用ユ ○嘗考 究論スル所アルノ辭ナリ

其ノ餘今夫且夫等ノ字ハ、起講ノ一條ヲ詳ニスルノ語ナリ、凡テ起語ニ皆通用スヘシ

第二接語辭

凡ソ上文ニ接シ順勢ニ講ジ下シテ復タ轉折ヲ作サル者、皆之ヲ用ユヘシ、而シテ之ヲ三類ニ分テリ

○一類

○此 上ヲ指ス ○茲 此字ニ比スレハ畧ホ婉ナリ ○是 上ヲ指シ順ニ断スル辭 ○斯 猶此也此字ハ

頭ニシテ直斯字 ○故 所以也推原 ○則 上文ニ順テ分折スルノ辭、上文ニ緊接シテ關

發スル者ニ ○蓋 推原ノ辭、起語ノ蓋ハ空指ナリ、此ハ實ニ上文ヲ領スル者ナリ ○乃 上文ヲ

ル ○何必 ○奚必 皆及折ノ辭 ○安得 望ム所アリテ未 ○焉得 夕遂サル辭又

折抑ノ辭ニ之ヲ用ユ

以上ノ十六字ハ凡テ乎、哉也、矣、等ノ字ヲ、便ニ隨ツテ
其未ニ押スヘシ

○一類

○由是 由從也上文ヲ跟リ ○由此 ○由斯 義上ニ同シ、マダ自
引申スルノ辞 是、自茲、從此、從茲

等ノ字 同シ ○是故 上文ヲ指シテ 推原スル辞 ○是其 上文ヲ跟リ 指點スル辞 ○此其 上

○至于 上文ヲ跟リ 更進ノ辞 ○及其 猶及 至也 ○迨夫 迨及也、 義同 ○迨至 ○及

至 此ヨリ彼ニ ○甚至 所至ヲ極 言スル辞 ○何則 上文ヲ頓住シテ問ヲ作
及フノ辞 及フノ辞 ○何者 上文ニ頓テ問フ

○何也 上文ニ頓テ問ヲ作スノ辞 則字ハ健也、字ハ輕シ ○何者 上文ニ頓テ問フ

○是以 上ヲ指シテ推 原スル辞 ○所以 上ニ頓テ推 原スル辞 ○蓋以 原上而頓 推之辞

○將以 將然 推ノ辞 ○誠以 確然推 断ノ辞 ○是知 上ヲ兼テ解語ス
ル所アルノ辞

一似 直言シカタク、 摩擬ヲ為スノ辞 ○一若 義同 ○亦以 上ヲ指シテ實理
ヲ指出スルノ辞 ○所

謂 其故ヲ原ネテ 進論スル辞 ○所為 所謂ト甚々異リナシ其 故ヲ原ネテ進推スル辞 ○蓋謂 其説ヲ推原スル辞、
亦起所ニ用ユヘシ

以謂 義同 ○以為 其故ヲ言シ 推ノ辞 ○是為 指其為 此之辞 ○如此 直ニ上文ヲ指シテ後説
ヲ引トスル辞、凡テ如是若此

若然等ノ字 皆コレニ倣フ ○於此 猶ホ即此在此ト云フカ如シ但シ即在ニ比スレハ 畧ホ虚ナリ、於是、於斯等
ミテ之ニ倣フ ○似乎 想像

想像 彷彿形 容ノ辞 ○恍若 ○宛若

以上ノ諸字、上文ニ跟シテ頓用スル者ハ、也、矣、焉、耳、等

ノ字ヲ押スヘシ、乎、哉、耶、歟、等ノ字ノ如キハ、宜ク文勢ヲ

斟酌シテ之ヲ押シ、輕用ス可カラサルヘシ、

○一類

○豈 反語ノ辞、及跌ノ辞、マタ 豈ト同クシテ 〇詎 畧ホ婉ナリ 〇寧 安ト豈トノ 問ニ在リ也

シ其文甚々婉ナリ、又別 〇非 不是 〇何 亦反辞ナリ又 〇奚 其是ヲ及決スルナリ 作、寧可之寧、願辞ナリ 〇何ト 折辨ノ辞、猶言寧不知 〇豈非 詎非、寧非、ミナ同シ

同シ 〇豈不 折辨ノ辞、猶言寧不知 〇豈有 不有ヲ反言セシ 〇豈能 詎能、寧能、ミナ同シ

〇豈可 禁止 〇豈得 亦折抑辞 〇豈者 不有ヲ反言セシ 〇豈能 詎能、寧能、ミナ同シ

不能ノ及 〇豈必 猶言豈果如此 〇寧必 豈必ニ比スレハ畧ホ婉 〇烏 詎必ト同シ

得 反折 〇疇不 疇ハ誰ナリ誰不云云トハ言有同 〇孰意 意 意料ナリ、猶言誰能意料到此、 〇孰謂 誰説ト同意ナリ誰謂、 凡テ豈意、誰意、何意等ミナ同シ

孰能 誰能、孰有、孰得、孰 〇焉能 不能ノ及言ナリ、何能、安能、 非、等ミナ之ニ倣ヘ 〇烏 烏能、奚能等ミナ之ニ倣ヘ

足 不足如此ノ及言ナリ焉足、 〇此豈 上文ヲ指シテ及折スルノ辞 〇此 安足、奚足、何足等コレニ倣ヘ 〇孰謂 誰説ト同意ナリ誰謂、 是非、茲非等コレニ倣ヘ

非 〇抑何 一層ヲ轉シテ 〇又何 一步ヲ進メテ 〇母乃 疑 〇孰能 誰能、孰有、孰得、孰 〇焉能 不能ノ及言ナリ、何能、安能、 非、等ミナ之ニ倣ヘ

密度 〇不幾 猶言不將 〇孰能 誰能、孰有、孰得、孰 〇焉能 不能ノ及言ナリ、何能、安能、 非、等ミナ之ニ倣ヘ

以上ノ諸字ハ上文ニ跟シテ逆用スルノ辞ナリ、宜シク 乎、哉、耶、歟等ノ字ト呼應ヲ為スヘシ也、矣、焉、耳、等ノ 字ハ是レ頓落ノ文法ニシテ、及落ノ法ニ非レハ誤填シ テ謬乱ノ弊ヲ致ス勿レ

第三轉語辞

竹文路

文章ノ直行セシム可カラサル者ハ、必ス轉々相生スルノ勢ヲ用ユヘシ、或ハ正轉シ、或ハ及轉シ、或ハ一步ヲ進メテ深ク轉セシムル等、皆一二字ヲ以テ之ヲ領スヘシ

○然 前文ニ及シテ發言スルノ辭ナリ、或ハ前及後正、或ハ前正後及、凡テ文ノ轉スル處ミナ之ヲ用ユ、マ々然字ヲ句末ニ押

シテ是字ノ如ク解セシムル者アリ、如ク雅之言然ノ如キ是ナリ、又形容ノ辭トナス者アリ、儼然、油然ノ類是ナリ、○苟 誠ナリ、果ナリ、

又苟且トナシテ用ユル者アリ、○或 設問ノ辭、疑義イマダ決セス無定ノ語ヲナシテ之ヲ商ルノ辭ナリ、○尙 或、

ノ字ト相ヒ類ス、凡テ及語ニコレヲ用ユ、○設 假設ノ辭、未タ然ラスシテ或然ノ想ヒヲ為ス片ニ之ヲ用ユ、○使 尙

ト相ヒ類ス、而シテ尙ホ實ナリ、○但 前二一説アリテ又別二一説アル者、此ヲ用ヒテ之ヲ轉ス、○第 但、

雖 上文ニ足ラサルノ辭ナリ、此ノ如シト雖、更ニ云云ノ意アリト言フノ辭ナリ、○且 一步ヲ進ムルノ辭、上

一説ア、○乃 若 前二已ニ説明シテ、後意ルナリ、○况 更進ノ辭ナリ、正意已

ヘキトアル片ニコレヲ用ユ、○矧 况ト同シ、○如 假設ノ辭、○若 如ト同シ、○抑 一層ヲ進

開キテ一説ヲ及講スル者之ヲ用ユ、○獨 別ニ一説ヲ舉テ開曉スルノ辭、○惟 獨ト同シ、○顧 上

ニ跟シテ進論スルノ辭、○彼 他人他事等ヲ指シ出スノ辭、○奈 如何、凡ス可キ無キノ辭、○然而

上意ニ及シテ圓轉マルノ辭、○然 則 上意ヲ承テ直轉スルノ辭、凡テ上文ヲ決斷シ上文ヲ及難スル者、皆之ヲ用ユ、○否

則 否ハ不然ナリ、此ノ如クセサレハ云云ト言フノ辭ナリ、○雖然 前文ヲ頌住シテ別ニ下文ヲ轉

云云ノトアリト云フノ辭ナリ、○不然 前文ニ及掉シテ論斷セントスルノ辭、此ノ如ク為サ、ラシメハト言フカ如シ、○苟

或 解ハ前ニ見ヘタリ、○尙使 解前ニ見ヘタリ、○藉使 借令、

設以 義ミナ上ニ同シ、○彼夫 別ニ指ス所アル辭、○若夫 微轉シテ別

也 上ニスシテ
決断スル辞 ○獨是 解前ニ
アリ ○惟是 同上 ○但以 解前ニ
アリ ○第

以上 同 ○況乎 解前ニ
アリ ○無如 猶言無
奈也 ○有如 猶言設有
若此
マタ擬度ノ辞ナリ

○更有 一步ヲ進
ムル辞 ○仍有 仍ハ還
ナリ ○尤有 更有ノ
意ナリ ○意者

擬度 ノ辞 ○意必 擬シテ自
決スル辞 ○或者 擬度ノ辞意者ニ比
スレハ畧ホ虚ナリ ○或且

更ニ他端他
説アルノ辞 ○不如 前説未タ當ラズシテ轉シテ曉諭ヲ作スノ辞
猶ホ其一ヲ知テ其二ヲ知ラスト云フガ如シ

○非然者 前説已ニ是ニシテ特リ一及ヲ作シテ以テ前説ヲ申
ブルノ辞若シ此ノ如クセスンハト言フガ如シ

○乃何以 怪ンテ問
難スル辞 ○不寧惟是 上文ヲ跟シテ引申スルノ辞
止ム此ノ如クミナラスト云フカ如シ

○不但此也 義同
以上ノ諸字ハ凡テ文章轉折ノ處ニ於テ其便ニ隨テ

之ヲ用ユ能ク其意義ヲ明ニスレハ千轉セシムルト雖凡
窮ラサルナリ

第四 襯語辭

文章中必ス虚字ヲ用ヒテ襯貼ヲ為サシム或ハ句首ニ
用フルアリ或ハ句中ニ用フルアリ皆之ヲ襯語ト云フ即
チ先輩ノ所謂ル助語是ナリ

○之 襯托ノ虚字ナリ本句ノ義理コノ襯托ニ非レハ透出スル能
ハス故ニ用フル所極メテ多シ又的ノ字ノ解ヲ為スヘキ者ア
リ於字ノ解ヲ為スヘキ者アリ往字ノ解ヲナス
ヘキ者アリ善ク用フル者ハ之ヲ辨セシ ○以 襯貼ノ虚字ナリ
用法最モ多ク用
字ノ解ヲ為スヘキアリ為字ノ解ヲナスヘ
キアリ又能左右之スルヲ以ト云フアリ ○於 辞句中ノ襯托字ナリ
大概之ヲ指ス所アル

○所 指ス所アレハ所字ヲ用テ襯托スレハ、
其理ト事ト乃チ畢ク見ル、ナリ
○攸 亦所也、コノ字
文ニハ常ニ用

○其 指ス所アルノ辞、人事物
理ヲ擇ハスミナ之ヲ用ユ
○乎 本歌語ノ辞ナリ、然レモ
句中ニ用ユルモ、於字ト

同クミテ畧虚
○諸 之於ノ義
○不 言絶不
也
○未 且然ニテ未然ノ意
アリ、不字ト同カラズ

○猶 如字似字ト義同シ、又還字
尚字ノ意トナシテ用フル者ナリ
○尤 更ナリ甚ナリ罪字
トナシテ看ルモアリ

由 從ナリ自ナリ、因字ト作シテ看
ル又率循ノ謂ナリ、亦繇ニ作ル
○亦 與也字
同
○既 已然已往
ノ辞ナリ

○必 决然
○莫 勿字無字ト畧アヒ似
タリ但シ莫字ハ虚婉ナリ
○勿 亦々禁
止ノ辞
○殆 近
ナ

○姑 聊且如此
○凡 大概ヲ指テ
言フノ辞
○皆 同ナリ
盡ナリ

○俱 皆ナリ
借ナリ
○相 彼此交合
ノ辞ナリ
○即 就ナ
リ
○就 即ト
同シ

方 將然ノ辞ナ
リ又纒ナリ
○將 未然ニシテ將ニ然ラントスル片
用ユル辞、又虚擬ノ辞
○遽 驟ナ
リ

○忽 突然
ナリ
○倏 忽ト同シ、又不
定ノ意ナリ
○當 宜如此ト言
フノ意ナリ
○宜 亦當ナ
リ又相

稱フ
○與 同ナリ、又取
ノ辞
與ノ與ト作ス
○祇 惟ナリ、亦但字ト作
テ用ユル者ナリ
○僅 畧ナリ少ナリ
纒ナリ、蓋シ他

ハ取所ナキ
ノ意ナリ
○庶 冀幸ノ辞、又庶
幾ハ近キ辞
○曷 何ナ
リ
○盍 何不
ナリ

第五束語辞

凡テ文章ヲ收束スル處、及ヒ股頭ノ處ニ多ク之ヲ用ユ

○總之 上文ヲ總
テ言フナリ
○要之 上文ヲ總
フルノ辞
○大約 大概ヲ約略
スルノ辞ナリ
○大

抵 義同
シ

第六歎語辞

○吁 嘆ナ
リ
○噫 嘆ナ
リ
○嗚呼 痛切嗟嘆
ノ意アリ
○嗟夫 感歎
ノ辞
○嗟

乎長嘆ノ意 ○嗟々歎シテ又歎スルナリ ○噫嘻嘆恨ノ辞ナリ ○悲夫感傷ノ辞ナリ

第七歇語辞

文字歇足ノ處ニ使フノ辞ナリ、而シテ其虚歇、實歇、順歇、逆歇ノ者アリ、各々同シカラス、宜ク其文勢ニ順シテ之ヲ押スヘシ、之ヲ二類ニ分ツ

一類

○也 平落ノ辞ナリ、凡テ文勢平々ニ落下シ、高キモ太々揚ラス、卑キモ太々卑クカラサル者、三ナ之ヲ用ユ、又中間ニ用ヒテ觀ヲナス者アリ、可也 ○矣 截然緊然ノ辞、凡テ文義ヲ説然セントス、簡赤也、感ノ類是ナリ ○矣 然緊然ノ辞、凡テ文義ヲ説然セントス、ル片ニ之ヲ用ユ、一定不移ノ意アリ、又抑テマタ起スノ辞、凡テ下文ヲ申シテ故ラニ一按ヲ作ス者亦々之ヲ用ユ ○焉 亦平落ノ辞ナリ、但シ也字ニ比スレハ韻畧亦輕清ノ意

畧ホ虚活ナリ ○耳 此頃勢輕落ノ辞、至易ニシテ難キコトナキノ意アリ、又不然ノ意アリ、其意遠クシテ韻長シ、轉文中ニ往々之ヲ用ユ ○已 止ナリ、足ナリ、凡テ文義已ニ盡ル者此ヲ用ヒテ押セリ ○諸 之字ト意同シ、然レ凡之乃チ起手虚字ニシテ、亦之ヲ句尾ニ押スヘシ ○云 猶説也、句末ニ押スレハ、大意如此ト云フガ如シ ○者 句尾觀勢ニシテ、事物人理ヲ指シテ言フ、亦虚ニシテ指ス所ナキモアリ ○者也 頃落ニシテ、終住スル辞 ○者馬 頃落ニシテ、輕住スル辞 ○也者 二字連用ハ必

○也矣 頃勢緊然ノ辞 ○也夫 頃落ニシテ、永嘆ヲ帶ルノ辞 ○矣夫 緊然ニシテ、咏嘆ヲ帶ルノ辞 ○已矣 意足リテ緊然スルノ辞、此止リテ他ナキヲ言フナリ ○已耳 文畢リテ頃落ナルノ辞 ○焉而已 宛轉終住ノ辞、三字連用ハ文極メテ搖曳ナリ、上ハ只一二ノ實字ヲ用フルヲ

○者耳 頃上直落ノ辞 ○者焉 頃落ニシテ、輕住スル辞 ○也者 二字連用ハ必

○也矣 頃勢緊然ノ辞 ○也夫 頃落ニシテ、永嘆ヲ帶ルノ辞 ○矣夫 緊然ニシテ、咏嘆ヲ帶ルノ辞 ○已矣 意足リテ緊然スルノ辞、此止リテ他ナキヲ言フナリ ○已耳 文畢リテ頃落ナルノ辞 ○焉而已 宛轉終住ノ辞、三字連用ハ文極メテ搖曳ナリ、上ハ只一二ノ實字ヲ用フルヲ

○者耳 頃上直落ノ辞 ○者焉 頃落ニシテ、輕住スル辞 ○也者 二字連用ハ必

○也矣 頃勢緊然ノ辞 ○也夫 頃落ニシテ、永嘆ヲ帶ルノ辞 ○矣夫 緊然ニシテ、咏嘆ヲ帶ルノ辞 ○已矣 意足リテ緊然スルノ辞、此止リテ他ナキヲ言フナリ ○已耳 文畢リテ頃落ナルノ辞 ○焉而已 宛轉終住ノ辞、三字連用ハ文極メテ搖曳ナリ、上ハ只一二ノ實字ヲ用フルヲ

○者耳 頃上直落ノ辞 ○者焉 頃落ニシテ、輕住スル辞 ○也者 二字連用ハ必

○也矣 頃勢緊然ノ辞 ○也夫 頃落ニシテ、永嘆ヲ帶ルノ辞 ○矣夫 緊然ニシテ、咏嘆ヲ帶ルノ辞 ○已矣 意足リテ緊然スルノ辞、此止リテ他ナキヲ言フナリ ○已耳 文畢リテ頃落ナルノ辞 ○焉而已 宛轉終住ノ辞、三字連用ハ文極メテ搖曳ナリ、上ハ只一二ノ實字ヲ用フルヲ

○者耳 頃上直落ノ辞 ○者焉 頃落ニシテ、輕住スル辞 ○也者 二字連用ハ必

○也矣 頃勢緊然ノ辞 ○也夫 頃落ニシテ、永嘆ヲ帶ルノ辞 ○矣夫 緊然ニシテ、咏嘆ヲ帶ルノ辞 ○已矣 意足リテ緊然スルノ辞、此止リテ他ナキヲ言フナリ ○已耳 文畢リテ頃落ナルノ辞 ○焉而已 宛轉終住ノ辞、三字連用ハ文極メテ搖曳ナリ、上ハ只一二ノ實字ヲ用フルヲ

妙ト ○耳矣 耳矣ハ頌然ノ辞此ニ止
ス ○而已矣 收轉此ニ到リテ其文ト
兼ル 義ト已ニ盡ルノ辞ナリ

以上ノ諸字ハ凡テ文ノ實寫頌寫ナル者ノ歌語ニ多ク之ヲ用ユ

○二類

○乎 疑テ未定ノ辞、商量ノ意アリ、咏嘆ノ意アリ
辭取ノ意アリ、但ニ上文ニ隨テ之ヲ用ユ

乎字ハ輕シ、歟字ハ穩ナリ、乎ハ疑テ未定
ノ辞、歟ハ疑ハサル者在ルノ意アリ

轉詰問ノ意ヲ帶フ、乎哉ノ字
ニ比スレハ趣味悠長ナリ

○哉 啓ホ乎字ト相近シ、然レ凡乎字ハ
歎ノ意、贊揚ノ意、自得ノ意アリ、凡テ文ニ之ヲ駁
セント欲シ之ヲ及セント欲スルト此ヲ用ユ

○者歟 婉轉虛
歟ノ辞

○者耶 蘊藉虛
歟ノ辞

○者哉 虛歟ノ抑揚
ヲ帶ル者

○也乎 順勢虛
落ノ辞

○也歟 也哉ト畧同シ、但シ更
ニ蘊藉ナルヲ覺フ

○也耶 音長クシテ意
婉ナリ、文ノ拖

漾ノ處ニ之ヲ用ユ、情ノ
凄感ノ處ニ亦之ヲ用ユ

○已哉 皆此ニ止ラサルノ意ナリ、而シテ其辞
氣乎ハ婉轉、耶ハ蘊藉、哉ハ揚厲ナリ

○矣哉 語熟ニテ咏嘆ヲ
帶ル者之ヲ用ユ

○否耶 上文ノ言ハ是ナレバ、此二字ヲ接スル猶ホ
馬字ハ上文ニ連ネテ一截シ、而シテ復タ否耶ノ二
字ヲ押ス、乃チマタ是ト不是ト兩問アルノ辞ナリ

○焉爾乎 輕提虛問ノ辞、其文甚タ婉ナリ、
論語ニ汝得久焉爾乎、是ナリ

○而已乎 爾ハ遠ノ様ト言フカ如シ、乃
此ニ止ル可カラサルヲ言フ
ナリ、乃チ婉轉ノ語氣ナリ

○乃爾乎 爾ハ遠ノ様ト言フカ如シ、乃
此ニ止ル可カラサルヲ言フ
ナリ、乃チ婉轉ノ語氣ナリ

○也歟乎 三字連用シテ咏嘆搖
曳ヲ極ムルノ辞ナリ

○也乎哉 義上ニ
同シ

以上ノ諸字ハ凡テ文ノ虛寫逆寫ナル者ノ歌語ニ多
ク之ヲ用ユ

ク之ヲ用ユ、右等ノ字法ヲ參觀シテ、也矣等ノ字ハ是
レ上文ノ由、此是故等ノ字ト接應ヲナシ乎、哉等ノ字
ハ豈非寧必等ノ字ト接應ヲナス者ナルヲ知リテ、
疑決ノ両義ヲシテ、謬誤セシムルヲ勿レ、

作文陸歩卷之二 終

